

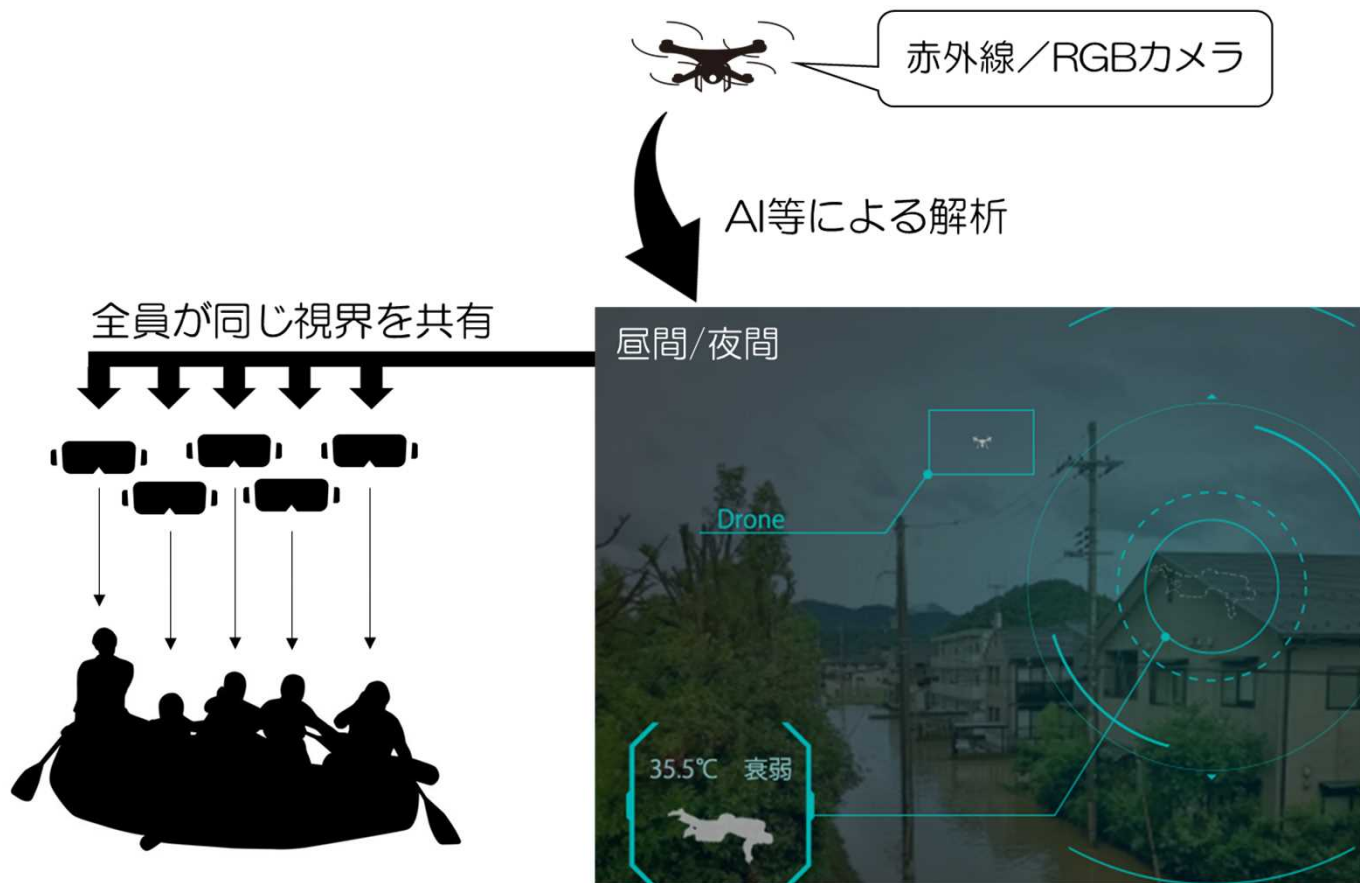
# No5 ドローン×AI×拡張/複合現実による要救助者空間表示システムの実用化

(代表事業者) ロックガレージ (連携事業者) ダイヤサービス

## ■ 事業概要

現状、ドローンから得られた情報は運用者端末への表示が主であり、救助隊員への情報伝達が必要である。迅速な救助活動のためには必要な情報が救助隊員に即時表示され利用できることが望ましい。本事業ではドローン、AI、拡張/複合現実技術でこれを実現し実用化する。

## ■ 課題解決方法のイメージ図



本システムでは、搜索活動を行うエリア上空をドローンが飛行し、可視光/赤外線映像をAIによって解析し要救助者の位置特定を行う。

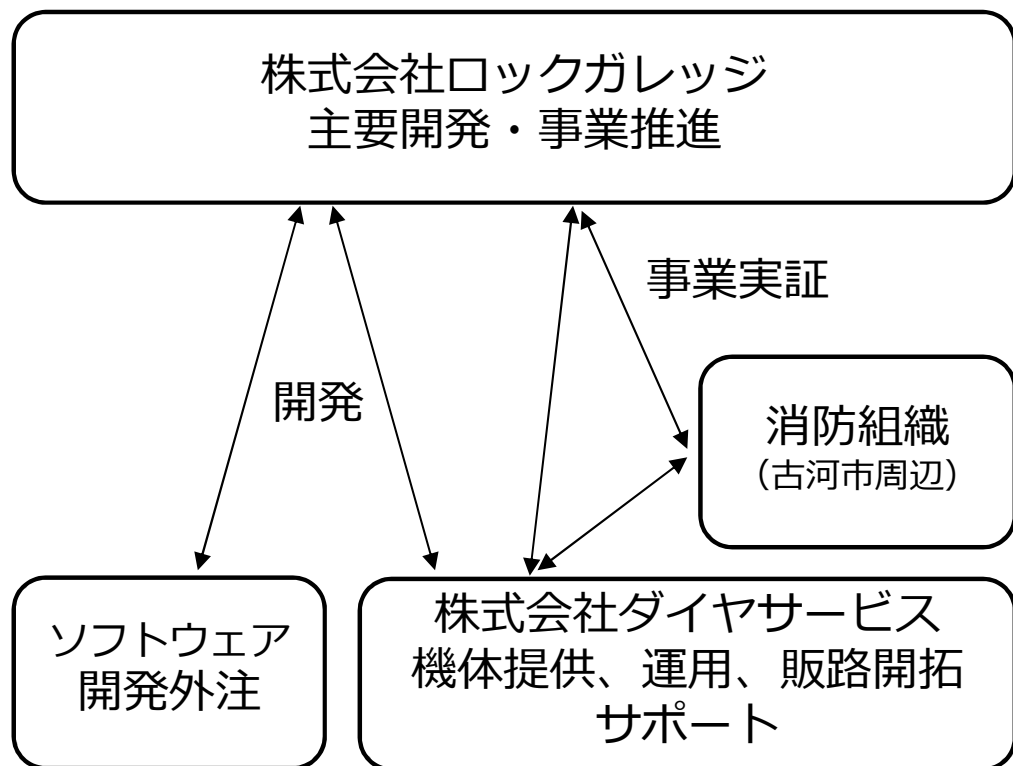
得られた位置情報と付帯情報（検知結果）は、救助隊員が使用するスマートグラス等に表示される。

救助隊員全員が分かりやすく空間投影された要救助者の情報に常時アクセスできるようにすることで、「あれ」「それ」といった形で指差しによる正確な意思伝達が可能となり、劇的な救助効率の向上が期待できる。

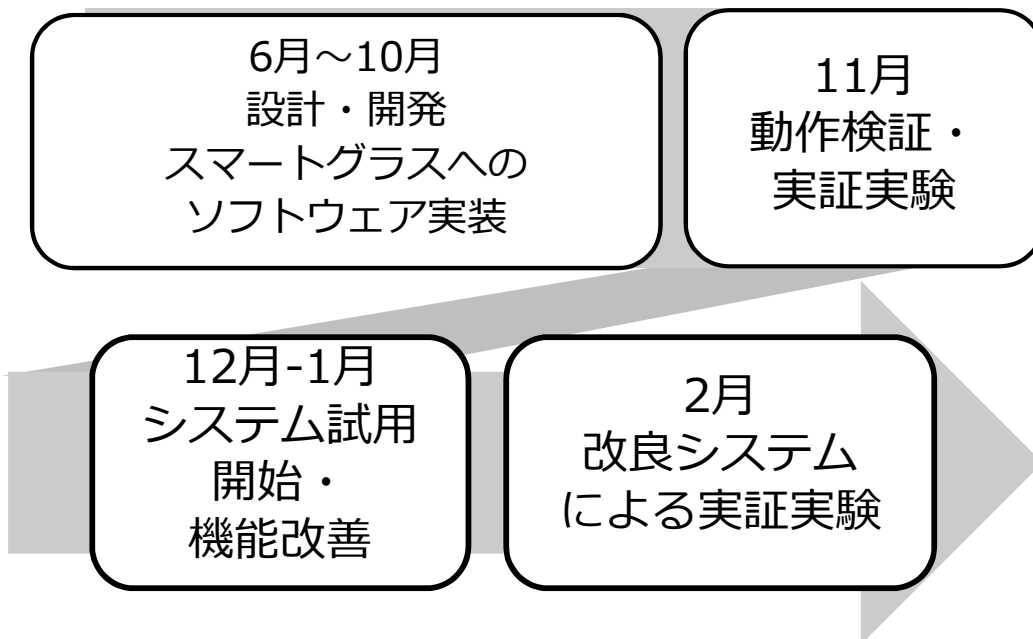
# No5 ドローン×AI×拡張/複合現実による要救助者空間表示システムの実用化

(代表事業者) ロックガレージ (連携事業者) ダイヤサービス

## ■ 実施体制



## ■ スケジュール・実証成果目標



### 目標

- ・システム導入・継続利用
- ・搜索作業時間の短縮

## ■ アピールポイント

本システムは、ドローンの飛行・AI/位置特定アルゴリズムによる対象物（人や物）の特定、ユーザー間への共有がリアルタイム処理によって自動化されている。

2021年1月には空間投影（XR）に対応し先進的な搜索を世界に先駆けてアピールした。